

・雨でも休まず、207回、208回、・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・定例活動1：2月 3日（第一土曜日）：小原本陣の森・技術向上・担い手育成の森
*参加費400円。弁当持参。車相乗りで行く。
- ・定例活動2：2月18日（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流・多様な森活動
*参加費：会員400円、非会員700円、学生500、体験学校1000円
- ・貝沢坂修復：2月24日（第四土曜日）：横道町内会と協働作業

- ・初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自、森へ。
- ・服装：汚れても良い服装、着替え、長袖・長ズボン・滑らない足元
- ・持参：なるべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、食器（碗・箸）、飲料水

* 注意事項：危険管理・救急体制：森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

林業が成り立たないか。

過日、県の林業関係の会議で、「昔は、農業・林業兼業で山での端境期は、炭や徳用林産物（茸や果実など）に収入源があったから林業は成り立っていたが、今はそれに期待できず林業は成り立たない」との発言があった。本当にそうか？、工夫が足りないと思う。

「それはおかしい。身近に優良林業家の丹沢の諸戸林業や山梨大月の東林業は、堂々と林業専業で盛栄している。個人事業家：逗子のIさんも成功している。何故、それに学ぼうとしないか。また、何も昔ながらに炭や茸で無くとも炭化物の酸化チタン触媒加工など、有害ガスの吸着分解材や木質バイオマスの地域暖房の途もある。或いは、「緑のダム体験学校」などの環境教育事業創出の途もある。素人ながらに当会は昨年、森林と消費者（伐採・乾燥・製材・建築：施主）を直結することによって粗利益率43.6%を挙げることが出来た。今期は50%を目標にした。

成功事例や「梶山論文（富士通総研・HP）、21世紀日本の森林林業をどう再構築するか」で対策を示している。これらを素直に受け入れて行動に移せば良いじゃないか。出来ないことを並べたて評論することが、まるで進歩的な考えであるような論者が森林を破壊している。

「頭から藪に突っ込む気概」無しに何が出来るものか。昨年12月25日、相模原市Y担当課長と小原～底沢間、約2kmの分断甲州古道を探して「藪漕ぎ」したら4ヶ所の古道痕跡を発見した。これを繋げば相模湖域内の甲州古道は全通する。グリーンツーリズム事業創出も考えている。

新しい年の幕開けです。山の神様へのご挨拶を済ませ、さて、イノシシの如く???, 活動開始。この地では7日まで山仕事はしないと言うことで第二土曜日13日に変更でも25人が集まった。作業が遅れ気味で臨時作業を設ける枝打ち班は、参加者を総投入!の勢い。お昼の上り下りの時間を惜しむメンバーもいて、そして成果は5班編成31本。目標本数まで残り約40本とか。2月・3月と定例活動と臨時活動を計画して目標達成まで、もう少し。



朝、作業前の様子

間伐・枝打ち班より少し下では、T・S(テープ・シュート: 新材伐出装置)のテスト活動。上方に設置したT・Sを使って林道まで下ろすW・S(カーブを無理なく降ろす装置)に繋ぐ。人力がどうしても必要な箇所があるんですがね。ここがなかなかの難所。結構な斜面で、足場を確保しないと材と一緒に引っ張られてしまう。前引き2人、後引き2人、互いに声を掛け合いのコンビネーション、こんな時、普段の信頼関係がモノを言うんですよ。

忘れてならないのは、炊事班。年初めの「餅入りゴツタ煮(?)」。今回は火が言うこと聞いてくれなくて、なかなかお湯が沸かない。山から降りてくるメンバーを待たせてしまうハプニング付きながら、タププリ食べてもらいました。選ばれた仲間のみ上出来の「お汁粉」もあり。そんなで始まった山の活動。今年も、怪我のない様、活動できたら良いな。山の神様へ、今年も私たちを、お守りください。

(昨年から、この報告書を投稿してくれている山本晶子さんは、文面から分かるように森が好きで、人のお世話が大好きで、毎月、小原町内会にも活動報告書を出してくれています。・石村記)



こんな森が... → こうなった

その日は山の神様への新年の祈願からはじまった。30名余の参加者は祭壇を設けて、昨年の安全な活動を感謝と本年の安全を願いその後、グループごとに勇躍、森作業の現場へと出発した。

石村さんと私は林道開設計画を考えるべく孫山に向かう沢筋の途は直ぐ行き止り、その延長の急斜面を登った。この地域は多数の小面積所有に分かれ、手入れされぬ放置林と聞いていたが、登っていくと何と、見事に間伐・枝打ち・林床整理の済んだ森林であった。石村さんも8ヶ月前からと全く美しく変身した森にビックリ。

尾根筋から入会地の是非、手を入れたいと言う孫山から左折した放置森も観察した。地域の車道林道整備は長年の森林の手入れを容易にするのでお勧めしたい。

急傾斜の落葉広葉樹林では、落ち葉スキーのように滑り、久しぶりの冬の森を思いだした。

(田中先生には9年前、農大聴講生として「林道開設論と林業機械論」を教わった。その関係で「小原本陣の森」に林道車道を入れるご指導をお願いした。昨年4月から当会が森に入るようになって以後、何人かの地主さんが森の手入れを始めたとは聞いていたが、これほど進んでいるとは思わなかった。都心から1時間弱、国道20号線から歩いて30分ほどのこの森を美林に変身させ、林業をあきらめた人々を勇気付けたい。一昨年・昨年と伐って製材して売って見たら然るべくお金になったから当会は森林再生に自信がある：石村記)

活動報告2：若柳嵐山の森：1月21日（第3日曜日：初活動と新年会：報告：伊藤小夜子）

雨も予報は外れ、曇りのち晴れ、71名参加。

午前中は恒例の森入り口の社で昨年の無事故の感謝と本年安全祈願。森を貸して下さる鈴木様へのご挨拶も厳粛にして希望の新年幕開けであった。



森のお社に新年の祈願



森を貸して下さる鈴木様に新年のご挨拶

新年の初活動で印象的には、若手・学生が多いこと。特に、信州大から一生を森に掛けると決心している土肥君、薬科大の前川君は森林環境を生涯のテーマとしたいと言っているのが心強い。植物図鑑の林君、T・S 開発者(材搬出装置)石綿氏・富沢氏・吉田氏などなど、森林総研出の桜井教

授などなど、只者ならぬ人材が集まってきている。

新年会場の旅荘五本松からの迎えが来るまでの1時間は、基地周辺の清掃と臨時の「望星の森計画」の打ち合わせ、「学生連合ノバ」は検討中の弁天の森視察、凡そ3グループでテキパキの効率的な活動となった。

午後・旅荘五本松・の新年会では豪華な顔ぶれが追加参加して下さった。神奈川県：県北事務所（荻原所長）、相模原市経済部（戸塚部長・柳川課長）、桜井教授（日大・森林総研）、佐川所長（佐川設計事務所）などのお歴々。

新年会の始めは、来賓の当会を励ます真面目なセレモニーであったが、儀式が終われば新年会は弾ける。エコ清水脚本に由る「ムササビ劇団：第2回公演・結婚・結婚、もう結構！」の開演。何だか、ワキャワカラン脚本ながらアドリブ・駄ジャレでも森が大切だと一本、筋が通っていたことは確か。

宴の跡の後片付けも圧巻、皆で一糸乱れず・阿吽の呼吸で手分けして10分程度で掃除機まで掛けて最後、大日向隊長の三本で締め。カドヤ会議でも森の話題で花がさいた。

その他の活動

1、甲州古道復活；頭から藪に突っ込んだ12月24日

古道：小原～板橋間が約2km、鉄道と高速道路建設で分断されている。「古道復活調査隊」は、相模原市役所の柳川さん（経済部・観光振興課長）を加えてここに「頭から藪に突っ込んだ」。

参加の森仲間は只者ではないが柳川さんはそれ以上の人物であった。我々調査隊は、バリバリ・パンパン地形を読みながら藪に分け入った。顔・手、あらゆるところに擦り傷が出来た。3年前に発見した2ヶ所の水場以外に2ヶ所の痕跡を発見した。

計4ヶ所を繋げば、崩れ落ちた古道は繋がる。底沢に架かると記録されている板橋：（幅2間、長さ6間の記録）は、鉄道と高速道路の埋め立て建設で地形が全く変化

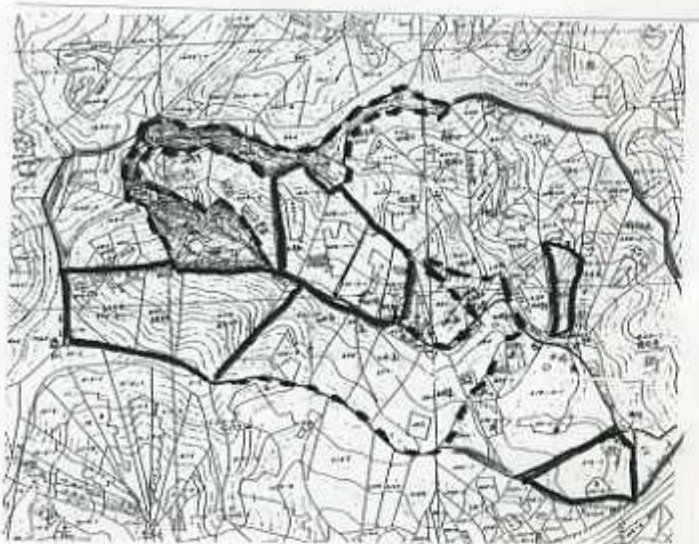
していた。橋の状況は、「板場：橋の側に住んでいた榎本さんの屋号」の記憶しか聞けなかった。それはそれで良い。記録に残ればそれで良い、それが歴史と言うものだ。

帰り、小原の郷を守る榎本和男さんが「ご苦労さん」と「劇辛・小原大根」をお土産にくれた。大根おろしで食ったが辛さの余り、涙ポロポロ・・・、旨かった。



藪の中にこんなに
ハッキリした古道が残っている

* 小原本陣の森の変化



—— 整備終了、- - - 今期計画

一昨年来、若柳嵐山の森への参加者が確実に増えている傾向にあったから、いずれオーバー・フローするだろう。日曜日は来れないが土曜日からは来れる・・・と言う参加者のために、小原本陣の森は、第一土曜日を活動日とした。当初は10人前後の参加であったが現在は、20～30人の参加となっている。

今年5月の活動日に我々の取り組む石井山の隣に上部、小林山と鈴木山がいつの間にか整備されていた。6月に小林さん（通称・伊勢屋）が息子さん連れで「俺も、山をやるよ。代々からの山を荒らしたままにしておけないからな」と言って山に入って行った。

この13日、車道林道をどう考えるかを調査するために沢筋に沿って尾根まで踏査した。驚いたことに沢筋の南西斜面は、すっかり整備美林になっていた。帰宅後、ポリゴン図と照らし合わせてみたらこの森の約30%、25haが終わっており、今期計画が約25haで2年の間に65%ばかりが整備されてしまう。当初、何十年掛かっても無理と言われていた。

* そこで神奈川県と相模原市にお願い！

小原町内会と上手く行ってっている当会に残りの35%をやらせて欲しい。相模原市は、小原町の活性化に力を入れてくれているが、この森全域を見事、美林に仕立て上げ山林を放置している全国の私有林の持ち主を励まそうではないか。木を売る仕組みにも挑戦したい。

2、平成19年度：かながわボランティア基金21審査会：1月11日

当会は3年目だが、この制度が始まっての6年目の基金21には、16団体がエントリーして3団体が却下、3団体が計画見直し、10団体が審査を通過した。当会は問題なく審査を通過して3年目の事業に入る。審査会には、森仲間の宮村さん・斉藤さんと中島さん(県北事務所)、本良さん・高橋さん(本庁企画部)、花上さん(本庁森林課)が応援に駆けつけてくれた。



19年度当会の重点政策は「木を使うこと、森を守ること：循環型の持続性ある森林経営の途を探る」であり、現在の林業で尤も難しい課題に挑戦すると意思表示した。

審査会の主な質問は、1、森林NPOで木をお金に替えると言う、そんなことが出来るのか、むしろ、自力経営の見通しはどうか、2)、出来るとしたら、ボランティア基金で無く「水源環境の保全・再生政策」の枠組みで取り組めないかと言う質問を受けた。

当会は既に自力による資金は50%を確保しており、市民活動の自由で柔軟な発想と行動があるからこそ、林業の矛盾と閉塞を突破できると応えた。また、本庁森林課・県北事務所の森林課は、この命題を一緒に検討してみようと言ってくれた。

3、古道：貝沢坂・一里塚（公園計画）：1月15日

12月に貝沢に仮橋を架けた。2月第四土曜日に横道町内会と貝沢坂の道普請をする。ここと前出の底沢～小原分断古道が繋がれば相模湖町域内の甲州古道は完全に繋がる。貝沢坂を上りきると景色は、パッと広がる。予告：2月24日(第四土曜日)横道町内会と協働作業。

貝沢一里塚・公園計画：遠景に富士、中景に丹沢連山、近景足下に相模湖。ここに江戸から16番目の一里塚があった。それを再現したい。横道町内会も其れを熱望している。地権者は、神奈川県企業庁であった。先月24日、企業庁に掛け合いに行ったら一市民団体に貸すわけに行かないと言うことで、なら、相模原市ではどうかと1月15日、相模原市の柳川観光振興課長に同行してもらった。結果、「ここにありました看板程度なら結構です」の許可が出た。実物を再現してこそ意味があるのに、お役所仕事の最たるものとは思ったが相手にも都合の有ることだろう。先ずは、良しとしておこう。



幅5間(9m)、高さ1丈(1.7m)、一里(約4km)に置いた。

4、木材生産地・上野原市+消費地・相模原市：1月23日

当会は、甲斐檜が東濃檜に化けて立米8万円になったり、丹沢杉が紀州杉に化けて6万円になったりしている事実を身をもって体験した。

神奈川県・相模原市と県境を接する上野原市には、優良森林組合と高く評価されている北都留森林組合がある。高く評価されているのは、補助金を上手に使って森林を良く手入れしていると言う意味であって経営内容が良いと言う意味ではない。

昨年、10月29日にあった神奈川県の植樹祭で小川相模原市長が「石村さん、木が入手できないから市の学校改装計画が進まない。何とかありませんか」と言われた。それなら、直ぐそばに北都留の木がある。

1月23日、北都留森林組合の長田専務の立会いで、相模原市の戸塚経済部長と上野原市の小沢

建設経済部長に会ってもらった。たちどころに「売りましょう、買いましょう」の合意が出来た。殆どの森林組合の利益内容が上手く行っていない理由は、山づくりは熱心だが自分たちで市場開発をしないからだ。

北都留森林組合のSGEC：国内認証の森づくり

国産材を売る仕組みづくりと過疎林山地の活性化を目的として、林野庁の管轄下にある全林協がこの運動を進めているが、市場づくりにまで目配りをしていないために、SGEC推進が進展していない。北都留森林組合が国内認証を取り、原産地証明・製材証明・品質保証し、2千万人以上の東京・神奈川市場にダイレクトセールスして範を示せば良い。何も静岡や名古屋に運ばなくとも十分に採算が取れるに決まっている。撫育に熱心だが北都留の年間出荷量は、2千立米に満たないから相模川流域沿いの富士東部・南都留・大月を誘い合わせて行動に移せば、年間1万立米くらいは出るだろう。そうすれば2億5千万程度の売り上げになるから、補助金と合わせて悠々と森林保全・再生が可能となる。現在はITの時代だが、これからは、環境の時代になる。森林は多様であるから単に林業だけに捕われず、観光・教育・グリーンツーリズムなどと組み合わせれば、優良産業になる筈だ。相模川流域の森林組合が協力して、その手法を開発して全国に伝えれば良い。2月には相模川流域の森林組合が集まって行動する計画が進んでいる。

活動アンケート第8回：間伐材の活用

FSCは、問題があれば解決することを求めている。208件のアンケートに対して38項目、58件の回答が得られた。昨年11月から今年10月までに全般的なこと(組織・資金・情報公開・社会的責任)について解答してきた。今回は間伐材の活用についての質問に答える。回答に対する疑問・意見・反論、忌憚のない・異論を提供されたい。(この回答欄は、認証機関SGSの観察条件になっている)

質問：化学薬品などの使用：当会ではどのような化学薬品を使っているのでしょうか。またチェンソーなど燃料系機器は別に保管すべきでは。(活動会員)

回答2：当会では、化学薬品は一切、使わない方針です。チェンソーオイルも植物系を指定して購入しています。洗剤は石鹼洗剤を使っており、酷い汚れ物は持ち帰って洗っています。私物も持ち帰ってもらってます。倉庫内は火気厳禁ですし、火気の原因になる状況はありません。ここでは指定した炉の周りしかタバコをすえません。

木を使うこと 森を守ること：12

文責 住まい工房 なお(株)

「森の木がすまいになる」体験をしたお施主様の息子さんは、様々な職人さんとの出会いにも驚いたようです。誰を呼ぶにも「大工さん、大工さん」ですが、仕事の違いは理解できたようです。共働きのお施主様なので週末に商談伺います。その度に何処まで仕事が進んでいるかを息子さんは話してくれます。特に自分の部屋は気になるようで現場に来ると真っ先に見に行きます。そして細かく説明してくれます。大工さんが切った後の切りくずも気になるらしく遊び道具になっていました。

この住まいは床と天井の断熱材は板の厚みを30mmにして断熱材と仕上材を兼用しましたが、

壁には羊毛の断熱材を使いました。壁一面に入っている羊毛を見ているだけで暖くなる感じ
です。子供たちも真綿でくるまれているようで「ふわふわ～」といつまでもはしゃいでいま
した。桧の床を張った時は桧の香り、天井に杉を張っては杉の香り、畳が入った時はイグサの香
りを楽しみました。麻スサ入りの塗り壁は「つのもた」という材料を使ったので海の香り
を楽しみました。自然素材ならではの楽しみですね。一つ一つが子供たちの脳裏に刻まれたこ
とでしょう。

大人になって住まいを立てるときにこの経験はきっとよみがえるでしょう。そして気を使うこ
とが森を守ることに繋がることも理解してくれるでしょう。引越しを済まされた息子さんは「木
のお家」と言って、とても喜んでくれました。お施主さまの笑顔が次に進む大きな原動力とな
ります

NPO 法人シュタイナー学園高校は、自分たち(高校生・父兄・教師)だけで学校を建てた。

最初、計画を聞いたときにはご他聞にもれず「本当に沿うかな？」と思った。
兎も角、自然の摂理に沿ってモノ事を学ぼうと言う方針で「この手の平に宇宙がある」と言うよ
ことを言う人たちだ。この校舎は、全体を正三角形で組み立てた珍しい様式になっている。
こんな学校を卒業した子供たちは、どんな大人になるのだろう。楽しみなことだ。



基礎だけ専門家に頼んだ



8月・お母さんが一人掃除をしていた。

活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず。ポチポチと・・・
そして、沢山の参加で森はよくなる。

名 称 : さがみ湖・森づくりの会 : NPO法人緑のダム北相模・森林部会

事 務 局 : 154-0023 東京都 世田谷区 若林3-35-9

発行人 : 石村 黄仁 T&F 03-3411-1636

H P : <http://midorino.dam.jp>

E-mail : moritomo@rk9.so-net.ne.jp

協 働 団 体 : 神奈川県(企画部、環境農政部、県北地域県政総合センター森林部),

ご支援団体 : WWF ジャパン、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、東急コミュニテイ